

回覽																			
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

名大 学内に常設保育所



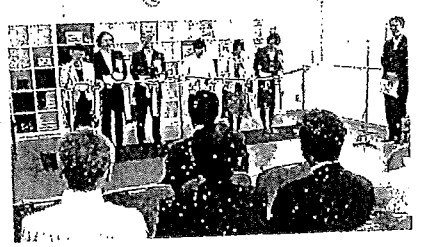
【名古屋】名古屋大学は1日、名古屋市千種区の同大学キャンパス内に設置した学童保育所（写真）の開所式を開いた。大学の常設学童保育所

「日本の労働人口が減少する中、子を持つ女性が必要な環境づくりが必要。これを全国に発信し広めたい」とあいさつした。

同所は以前からあった学内保育園を増築した部分の2階を使用。床面積は206平方メートル。保育定員は60人。増築の費用は1億3400万円。保育児が通っている近隣の小学校まで専用タクシーで迎えに行く仕組み。また、学内の教員らが

指導役となって、天体観測会など各種イベントを随時開催していくのも特徴で、大学の機能を活用して児童の知的好奇心を刺激する。近隣の大学の教職員も利用可能としている。

21.9.2
中日(朝刊)



名古屋大が建設を進めていた小学生専用の学童保育所の開所式が1日、千種区の東山キャンパスであった。写真

名大に全国初の学童保育

研究者を支援
東山で開所式
名古屋大が建設を進めていた小学生専用の学童保育所の開所式が1日、千種区の東山キャンパスであった。写真

真。研究者らの子育ての支援が目的で、全国の大学で初の試み。

式典で浜口道成学長は「大学は女性研究者の割合が低い。仕事を継続できる環境づくりが今後大切だ」とあ

いさつした。

保育所は、増築した保育園の二階部分約二百平方メートルに設けた。七月二十一日から運用を始め、夏休みに十人ほどが通った。運営は民間会社に委託し、午後九時まで預かる。

大学ならではの利点を生かし、夏休みも研究者が「講師」になり、天体観測をしたり、土曜の復元を体験したりした。一年生の子どもを預ける女性研究者（三）は「研究に没頭できる時間が確保でき、職場と近いので安心できる」と話す。